学力向上通信　Vol. 33
「三重の学-Viva!!（まなびば）」
９月号

三重の学（まな）Viva!!

9
2017
発行者：三重県教育委員会
「学力向上緊急対策チーム」
連絡先：研修推進課
TEL：059-226-3572

※学-Viva：「Viva」は，「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

平成２９年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました

平成２９年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省より公表されました。
本年度は、教科に関する調査において、全国の平均正答率を上回った教科が中学校１教科（数学Ａ）にとどまり、小中学校合わせた８教科中７教科が全国の平均正答率を下回るという大変厳しい結果となりました。

しかしながら、中学校では、平均正答率が小学校６年生時と比べて全教科で全国との差が大きく改善されています。また、小中学校ともに無解答率は改善傾向にあり、粘り強く頑張ったことがうかがえます。子どもたちや教職員に芽生えてきた「やればできる」という思いが形になってきています。

（表中の**太字**は、改善された項目の割合等を示す。）

平均正答率	小学校				中学校			
	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ
全　国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1
三重県 (全国との差)	73.6 (-1.2)	57.0 (-0.5)	77.4 (-1.2)	44.6 (-1.3)	**76.9** **(-0.5)**	**70.7** **(-1.5)**	**65.3** **(+0.7)**	**47.3** **(-0.8)**
Ｈ２８全国との差	-1.2	+0.3	+0.7	-0.1	-1.2	-2.2	0.0	-0.9
Ｈ２６小学校６年生とＨ２９中学校３年生の同一児童生徒の調査結果の全国平均正答率との差における改善状況					**+2.8**	**+1.5**	**+2.6**	**+1.4**

平均無解答率	小学校				中学校			
	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ
全　国	2.77	4.31	1.59	6.42	2.43	3.80	6.25	11.71
三重県 (全国との差)	**2.26** **(-0.51)**	4.32 (+0.01)	1.44 (-0.15)	6.64 (+0.22)	**2.01** **(-0.42)**	**3.72** **(-0.08)**	**5.39** **(-0.86)**	**10.95** **(-0.76)**
Ｈ２８全国との差	-0.24	-0.24	-0.31	-0.29	-0.13	+0.07	-0.68	-0.74
Ｈ２６小学校６年生とＨ２９中学校３年生の同一児童生徒の調査結果の全国平均無回答率との差における改善状況					**-0.98**	**-2.28**	**-0.97**	**-1.82**

（教科に関する調査の結果より）

学校の取組、子どもたちの家庭での過ごし方に見られる課題をどう改善するか

全国学力・学習状況調査の結果から自校の取組を振り返ってみましょう

小学校では、これまで改善が見られていた、全国学力・学習状況調査を活用して改善に結びつける取組が下降しています。また、子どもの考えが深まるような授業展開（様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導等）、保護者に対して家庭学習を促すような働きかけなどについても同様の傾向にあります。

○「全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有した」

	Ｈ26	Ｈ27	Ｈ28	Ｈ29
「よく行った」と回答している割合	23.6	42.8	61.6	↘ 55.9 (昨年度比-5.7)

「分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した」　-5.4（昨年度との差）
「保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った」　-4.4（昨年度との差）
「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」　-3.3（昨年度との差）

（学校質問紙調査の結果より）

子どもたちの自尊感情はさらに高まっています!!しかし、課題も残っています

児童生徒質問紙調査結果からは、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」という子どもたちの割合は増えていることがわかります。子どもたちのやる気や頑張りは、子どもたちが「わかった」「できた」と実感できる日頃の教育実践によるところが大きいと考えています。

一方、これまでも課題である家庭での過ごし方、生活習慣、学習習慣、読書習慣に関する内容では、引き続き課題が見られます。家庭・地域と連携し、子どもたちの学ぶ環境づくりをさらに改善していきましょう。

		H26	H27	H28	H29
●自分によいところがある	児童	75.7 (−0.4)	75.1 (−1.3)	75.5 (−0.8)	77.4 (−0.5)
	生徒	69.1 (+2.0)	69.4 (+1.3)	71.3 (+2.0)	73.2 (+2.5)
●平日のスマホの通話等の使用時間（３時間以上）	児童	5.6 (+0.6)	6.3 (+0.6)	5.9 (+0.1)	7.9 (+0.9)
	生徒	24.5 (+4.7)	21.5 (+3.3)	18.6 (+2.0)	20.6 (+2.5)
●平日の学習時間の状況（１時間以上）	児童	59.4 (−2.6)	58.4 (−4.3)	60.4 (−2.1)	61.6 (−2.8)
	生徒	64.4 (−3.5)	66.5 (-2.5)	65.2 (−2.7)	66.5 (−3.1)
●授業以外の読書時間の状況（平日 10 分以上）	児童	62.5 (−2.2)	61.1 (−3.1)	62.4 (−1.1)	61.8 (−1.5)
	生徒	50.7 (−2.3)	48.6 (−3.6)	46.4 (−3.3)	47.7 (−3.7)

（児童生徒質問紙調査の結果より）

結果に見られる子どもたちのつまずきを授業でどう改善するか

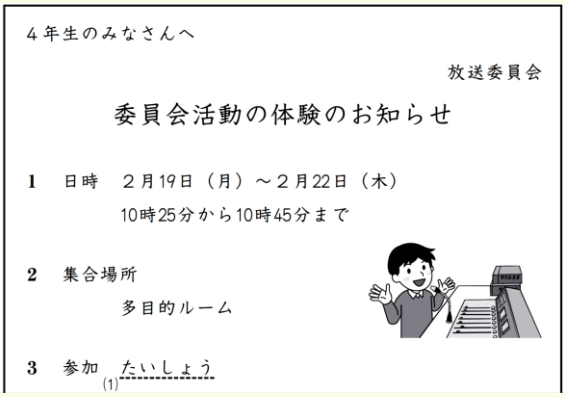
平均正答率や解答類型から、**何が課題か**、**どんなつまずきがあったか**を確かめるとともに、**どの学年のどのような学習内容か**を明らかにして、**系統的に学習内容の定着を図っていく**ことが重要です。

小学校国語の調査結果から

文の意味を理解し、漢字を正しく書くことに課題!!

A[7]（１）参加たいしょう

＜三重県 37.0（全国との差-5.0）＞



４年生のみなさんへ

放送委員会

委員会活動の体験のお知らせ

1　日時　２月19日（月）～２月22日（木）
10時25分から10時45分まで

2　集合場所
多目的ルーム

3　参加　たいしょう (1)

◎小学校５年生までに「対象」「対照」「対称」を学習しています。「たい」は「対」と正しく書けている児童が多かったのですが、「しょう」を内容にあった漢字で書くことに課題が見られました

小学校算数の調査結果から

除法の結果を分数に表すことに課題!!

A[2]（１）５÷９　の商を分数で表す。

＜三重県 64.3（全国との差-4.9）＞

◎「商」を小数で求めてから分数に表そうとした誤答の割合が、全国より多かったです。除法で割り切れない計算を分数で表すことの技能に課題が見られました。

◎H20 全国学力・学習状況調査

「A[1]（６）２÷３　の商を分数で表す」と比較すると、全国平均も低くなっていますが、三重県はさらにその差が広がり、課題が見られました。H20＜三重県 77.5（全国との差+3.8）＞

同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えながら、正しく使うことができるよう指導することが大切です!!

商については、４年生で学習する内容ですが、５年生で割り切れないわり算の商は、分数で表わすことを学習します。系統的に指導していくことが必要ですね!!

学習の系統的な積み上げから、確実な学力の定着を!!　そして、卒業までに学力の保障を!

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

教職員支援機構主催「次世代型教育推進セミナー～アクティブ・ラーニングについて学ぶ～」（三重会場）の内容から「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について紹介します。

「学習指導要領改訂の方向と授業改善～主体的・対話的で深い学び～」

國學院大學人間開発学部初等教育学科　田村　学　教授

これからの変化の激しい社会に向け、新学習指導要領では育成を目指す資質・能力について三つの柱が示されました。それらを確かなものとして身に付けていくためには「**どのように学ぶか**」に着目し、これからの授業では、子どもたちが学んだ知識・技能を活用して考えたり、考えを表現したりする**アウトプット**の機会が大切となってきます。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養
どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

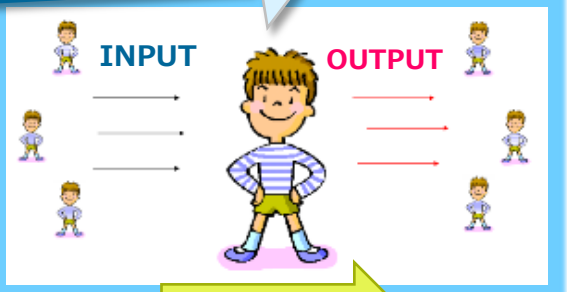
「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化

- 何を理解しているか　何ができるか
  - 生きて働く知識・技能の習得
- 理解していること・できることをどう使うか
  - 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

資質・能力の三つの柱を育成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現が必要！

「深い学び」をイメージする
- 知識と体験がつながる
- 知識と知識がつながる
- 知識が自分とつながる

どのように学ぶか



プロセスが大切

- 教科書を読む。
- 教師の話を聞く。
- 友だちの発言を聞く。等

INPUT

- 習得した知識を活用して、子どもたち一人ひとりが、自分の考えを発表し表現する。等

OUTPUT

思考が活性化！　頭の中がアクティブに！

授業改善のポイント

Point１．プロセス（学習過程）の充実を図る
- 課題を設定する
  （問題状況に対する違和感、理想状況に対する憧れ　など）
- 見通しを持つ
  （学習の過程への見通し、学習到達点への見通し　など）

Point２．音声言語で学び合う
- どのような情報を持っているか　・どのような処理を期待するか
- どのような成果を願うか　など

Point３．文字言語で振り返る
- 事実の確認　・関係性や一般化の生成　・自己変容の認識　など

参考：「次世代型教育推進セミナー（三重会場）」
田村教授　講義資料（６月３０日実施）

「田村教授の講義を聞きたい」ときは、こちら！！

● **校内研修シリーズ**

教職員支援機構の公式 YouTube チャンネルでは、２０分程度の講義動画が提供されています。各校での校内研修等で活用してみてはいかがでしょうか？

→ **校内研修シリーズ No４**
「新しい学習指導要領において期待される学び」
國學院大學　教授　田村　学

検索！ nits 校内研修シリーズ →

http://www.nits.go.jp/materials/intramural/

「授業実践事例を知りたい」ときは、こちら！！

次世代型教育推進センターのホームページでは、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組んでいる実践事例が紹介されています。

- 子どもたちの学びの姿
- 校種
- 教科等

絞り込み検索が可能！

検索！ 次世代型教育推進センター →

http://www.nits.go.jp/jisedai/

学力向上に向けた

具体的な実践事例

【事例２７】松阪市立第四小学校　学校支援地域本部（地域未来塾）

～基礎学力の向上と安心安全の居場所づくりへ～

学力の向上を目指して

第四小学校では、学習習慣が十分身に付いていない児童等の基礎学力の向上と安全安心の居場所づくりを目指し、さまざまな形で学習補充を行っています。

学習会のはじまり

平成 24 年度から、第四地区住民協議会教育部会が運営する形で**第 2、第 4 土曜日の 14:00～16:00** に**土曜学級を開催**することとしました。**「地域の子どもは地域で育てよう」**を合言葉に、**学校の授業で十分に習得できなかった内容について補充学習を行い**、子どもたちは用意された各学年に応じたプリント（国語・算数）からやりたいプリントを選んで取り組み、採点をしてもらいます。

更なる発展へ

土曜の学習会を経て、学習会をより日常のものとするため、平成 29 年 7 月から試行していた**放課後学習会**を 9 月より本格実施することとしました。子どもたちが、学校の宿題で分からないところを教えてもらいながら学習し、理解を深めることを目標として取組を始めました。

休日開催ということで参加することが難しかった児童も、平日の放課後になり、参加できるようになりました。

他の活動との連携

- 第四小学校は鎌田中学校区の**各コミュニティ・スクールとも連携**しています。さまざまな場面で、中学校とも積極的に連携を行い、一体となった学校づくりを推進しています。
- 地域未来塾のボランティアの方には**読み聞かせや学校の授業等でも支援**していただいています。いろいろな機会に児童と関わっていただくことが、児童の落ち着きにつながっています。
- 第四小学校の**学習支援ボランティアが鎌田中学校の学習支援も行う**など、支援の輪が広がっています。今後、小学校での地域未来塾の取組が児童の進学に合わせて中学校にも広がることが期待できます。

今後に向けて

- ボランティアによる学習支援が広がることで、学習会が充実。地域の方にじっくり関わってもらうことで、**学習意欲もＵＰ！**
- **中学校との連携**を図ることで、小学校での学習経験が中学校にもつながります。**地域全体の学力向上**が見込めます。
- 未就園児支援「ひよっこ広場」に小中学生がボランティアに行ったり、高校生がボランティアとして学習支援に来たりと、**支援されていた人が支援する側にまわる好循環**も期待できます。

学校長から

第四小学校では、学習補充の取組とともに、生活科や総合的な学習の時間を柱に各教科との関連を図り、地域を主なフィールド（地域とともに学ぶ）に編成した年間カリキュラムを大切にしています。学校運営協議会等を通じ、家庭や地域とカリキュラムを共有することにより、子どもたちは**学ぶ意義や楽しさを実感**するようになってきました。全国学力・学習状況調査結果においても、コミュニティ・スクールがスタートした当時と比較し、５ポイント以上あった**各教科平均正答率の全国との差が改善**され、上回るようにもなってきました。また、子どもたちの**自尊感情や規範意識が高まり、基本的な生活習慣も身に付きつつあり、生活指導上の問題や学校に出にくい児童の数も減少**してきています。